

福武線をみんなで考えよう！080525 ついでに腹部もメタボ対策を！



●ディスカッション



●総会后記念写真

■2～3ページに関連記事

活動報告

- 5月18日 講演会「フライブルク市のマイカーに頼らない交通システム」
20日 全国路面電車サミット実行委員会
22日 事務局会議
23日 IRE研究会
24日 サミット事前打合せ会
25日 ROBA総会・「みんなで考えよう。これからの福武線」
29日 福井市福武線サポート団体協議会設総会
29日～30日カーフリーデーアジア会議
6月1日 秋田県議との懇談会
6日 事務局会議
10日 全国路面電車サミット実行委員会
11日 森田地区まちづくり協働事業会議

活動報告

- 6月12日(木) REF 講演会「イタリアの交通まちづくり」
13日(金) 事務局会議
20日(金) 中部運輸局地域コーディネーター会議
20日(金) ROBA例会

今後の予定

- 6月27日(金) 事務局会議
28日(土)～29日(日) 福井市環境展
7月1日(火) 全国路面電車サミット実行委員会
4日(金)～5日(土)
第3回JCOMM(デザイン賞表彰式)
4日(金) 事務局会議
5日(土) 阪堺線・LRT計画視察
11日(金) 事務局会議
18日(金) ROBA例会

ゆうじんの部屋 書籍紹介

セオリー 2008 vol.2

講談社 1000円 ISBN978-4-06-378102-1 C9433

雑誌である。今回号の題名が「高級住宅街の真実」となっている。高級住宅街が高級住宅街であり続ける理由。もちろん区画が大きく単価が高くて庶民には買えないということもあるが、開発者の心、道路条件、建築協定などの努力、経済的に余裕のある人々の作るコミュニティ、いろんな要素が分析されている。田園調布、松濤、成城、山手、披露山、芦屋、下鴨大都市だけなのが残念。

結局敷地が広い→人口密度が低い→車がないと暮らせないということで、くるま社会になってしまうところばかり。高級マンションの暮らしも紹介されているが、これも東京限定といった感じです。

こんな本を読んでも、自分の家はやはり最高という気持ちは変わらない。我が家自慢はじっくり別の場所で。(東京へお越しの際は声をかけてください)

(財)国土技術研究センター調査第3部長 美濃部 雄人 Minobe Yujin

平成 20 年度 R O B A 定例総会を終えて

R O B A 会長 内田桂嗣

5 月 25 日の定例総会にて、今年度も会長の職を務めさせていただくことになりました。

思い起こせば、R O B A がスタートしたその年に京福電車の運行停止という大問題が発生しました。2001 年でした。困難な状況ではありましたが、我々には悲壮感はなかったように思います。R O B A の企画が楽しいことと、前向きな意見や論者の持ち主の会員との交流がたまらなく新鮮であったから・・・、今考えるとそう思います。

さらに確信を得たのは、R O B A のスタンスは世界で活気あるまちづくりをやっている都市の方向と一致しているということ、さらにその考えのもとで活動している全国の仲間や識者が大変多いこと。そして、これらの事実は我々の活動の大きな下支えになっていると言えます。

また活動を通して感じたことは、進むべき方向は間違っていないにしても、今ある社会を R O B A が考える方向に持っていくことがどれだけ困難でたいへんな労力と多くの時間を要するか、ということです。

その結果として、活動の成果はすぐには現れないけれど活動の歩みを止めてはいけないこと、小さなことでもできるだけ多くの人に伝えていくことの大切さを学んだように思います。

本年は、「よもや福井で開催などあり得ない」遠い世界のイベントだと思っていた全国路面電車サミットを福井で開催することになりました。この行事は 1 市民団体が、関係するいくつもの自治体を動かし、経済界を巻き込み、他の団体と一緒に福井の新しい方向を市民に届ける役割があります。サミットを通じて鉄道をはじめとする公共交通の社会的な役割を再認識する機会ができれば良いですね。是非、会員皆さんの積極的な参画をお願いいたします。

第 9 回全国路面電車サミット 2008 福井大会 プレイベントに参加して part 1

福岡 敏成

5 月 25 日（日）大勢の参加者のもと総会・講演会が開催されました。福武線の事業継続の問題も話題になる中、10 月の路面電車サミットまで待てない！？ホジロバ好きな人々が集うプレイベントに参加させていただいた。

【講演会】

広島電鉄はもともとは、電車、バス、不動産業の 3 部門をもつ会社だが、それぞれの部門の独立採算性を高めることを目的にカンパニー制を導入した。ＪＲ線と競合しながらも市民の身近な足としての電車の利便性を高める工夫が、本当に様々に取り組みされていることがわかった。例えば以下。

- ・電車軌道敷内は自動車乗り入れ禁止（Ｓ４６年より！）となっており、このことが、朝夕の渋滞に影響されず電車の定時制を飛躍的に向上させた。
- ・国産ＬＲＴのグリーンムーバーＭＡＸを平成１７年より導入し、車いすやベビーカーなどが車内の移動がしやすい車両となった。
- ・バス停と電停のホームをひとつ屋根で一体化し、乗り継ぎ利便性を向上させた（甘日市役所前駅）
- ・芝生軌道の整備によってヒートアイランド現象の抑制や騒音、振動の軽減を図った。

【ディスカッション】

R O B A の会より福武線活性化のために 3 つの提案があった。個人的には、えち鉄と福鉄の相互乗り入れを契機に田原町駅をフェニックスプラザ内に取り込んで、周辺地区の核となる提案が面白いと思った。

川上先生からは、将来の少子高齢化時代に向けて、真に効率的な投資先として公共交通の有効性について話された。全国の地方鉄道の経営難を背景に、今後は適切な公的関与（特に初期段階）と事業者の自立のバランスが大事だとのお話もなるほどと思った。

会場からの発言者も多く時間超過するほどの議論の盛り上がりで、大盛況のうちに終了した。関係者の皆様本当におつかれさまでした。

谷口 泰広

午前中の総会に出席することが出来なくて残念であったが、午後からの講演、ディスカッション）は、まさに有意義な時間の空間であった。まさしく、みんなで考えよう、これからの福武線であった。

第1部の講演の中には、福武線再生のヒントが沢山隠されていたと思われます。例えば、交通結節点の整備（歩かせない・濡らさない・待たさない）これは、福井駅前広場への延伸、田原町へのえちぜん鉄道三国芦原線との相互乗り入れ計画である。ただハードルは高すぎますが、予算的には路面電車支援施策等の補助金の手助けとなれば幸である。翌日の各社の新聞にもかなり大きく取り上げてくれていることは、今まさに福武線反響が大きい社会現象であるということである。路面電車は福井の文化資産と言っても過言ではないと思います。諸君同士よ。まず考える前に福武線に乗りましょう。乗ってから、電車が動いてから、公共交通は、人と社会を結びつけ、安全で快適なクオリティの高い暮らしを提供してくれることを願って、電車に乗りましょう。この情熱が行政や事業者を動かすエネルギーだと思います。

松原 光也

中尾さんの講演、ディスカッションを通じて伝わってきたのが、多くの参加者が福武線や福井都市圏の交通やまちをいかによくしていくかという意気込みでした。広電が広島市民の足として定着しているのには、事業者の努力と、地域の行政や市民の創意工夫と活動があった。車の軌道敷内通行禁止のため、情熱と信念を持って根気強く行動した人々の貢献や、電車を日々使う人達がいたから今の広電があると思う。

福武線の場合、日々使わない人から見れば福井と武生間はJRと並行し、赤字なら必要ないのではと思うかもしれない。しかし、実際に乗車し、沿線を歩いてみても、地域と密着しているのは福武線のほうであることがわかる。私は交通地理学で鉄道と沿線地域との関わりについて研究し、鉄道と住宅、職場、学校、病院、商店などの立地を見ると、福武線の役割は大きいと考えている。北陸線沿線の約2.1万人に対して、福武線は7.8万人もの沿線人口を支え、生活の足となっている。現在は自動車利用の割合が高いが、鉄道を必要としている人は少なくない。各地域の活動が結集されれば、将来の活用につながると思う。

福井鉄道が地域に支援を求めた経緯についても、社会的な背景を考慮しなければ改善への道筋が絶たれてしまう。企業として利益を出すことは当然求められているが、鉄道やバス会社は「公共交通」という企業としてはあまりに大きな重荷を背負わされている。それにも関わらず利益を出していないと努力が足りないというのは酷な話である。広島のような大きな都市でも利益を出すためには相当の苦労がある。福井ではどれだけ努力しても利益を出すのには限界がある。利益という経済的な観点だけからみれば、えちぜん鉄道より福井鉄道のほうが結果を出している。そもそも同じ条件で競うことができていないことに問題がある。鉄道はバス、不動産、その他の産業や人々の生活を支えることで、地域に便益をもたらしている。沿線3市、県は支援体制を整えて、地域の鉄道、バスを一体的に改善するための舵取りに期待したい。イベントに集まった人たちは必ずそれに答えようという意気込みが伝わってきた。

日本全国で鉄道の存続問題が生じ、廃止となった地域では住民の熱意が足りなかったなどと評価されている。現にその問題が議論されている地域でも行政側が住民の熱意さえあれば支援を検討するといった意見も聞かれる。私はこれらの意見には疑問と矛盾を感じていた。今回のイベントでさらにそのことを再確認することができた。住民は日々生活している中で、困っていることや改善されればいいなと感じていない人はほとんどいないと思う。ただ、現状ではそのことを表に出せる人はごく限られている。それを熱意がないと判断するのはいかがなものか。表に出てこない意見を吸い上げるしくみが来ていないだけで、それを創出するのが行政の役割である。住民に熱意を求めるのは行政としてあまりに無責任ではないかと思う。住民の熱意は行政の決意と呼応して高まるのである。行政がビジョンを示し、住民や事業者が行動でそれに答える。福井ではそのノウハウを体験してきており、今後の活動に生かせると思った。

福井市福井鉄道福武線サポート団体協議会設立総会@豊公民館

(写真・文 塚谷 康夫)

事業者単独での経営維持が困難となった福井鉄道の福武線を守るべく、麻生津・清明・豊・木田・六条の各地区自治会連合会や福井市老人クラブ連合会、福井県高等学校 PTA 連合会など 11 団体が集まり、「福井市福井鉄道福武線サポート団体協議会」の設立総会が 5 月 29 日に豊公民館で開催されました。この数日前に同様の団体が設立された越前市・鯖江市に続き、沿線 3 市の支援組織が出そろうことになりました。ROBA も構成団体の一員です。

あいさつや来賓紹介の後、設立主旨説明と設立準備の経過報告がなされ、協議会の規約や役員の選任が拍手で採択されました。そして、福井鉄道の現状報告と越前市・鯖江市との 3 市合同サポート団体協議会や「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく法定協議会の説明と続きます。

その後、会場から福鉄に対する意見・要望の聴取がありました。『朝、急行が多いので目の前の駅を通過されてしまい、福鉄を利用したくてもなかなかできない。』『電車が利用しやすくなるように、バス接続の時間を考慮してほしい。』などの現行の運行体制への不満が述べられたほか、『福鉄の利用者増加にもなるし沿線に公共施設などを誘致したいのだが、土地利用区画の関係で却下されてしまった。このような“障壁”を取り払ってほしい。』と法律・制度面の不備を指摘する声もあがりました。

福井市福井鉄道福武線サポート団体協議会は今後、沿線の各地区自治会連合会の代表と ROBA 内田会長を構成員とする幹事会(6 名)を中心として運営されていきます。福井市の沿線住民と最終的な決定権をもつ法定協議会への橋渡しとなって、サポート団体協議会が活動していくことを期待します。



会場の豊公民館に集まる人々(約 100 人)



二階大ホールの後ろまでぎっしり



協議会構成団体の一員となった ROBA 内田会長



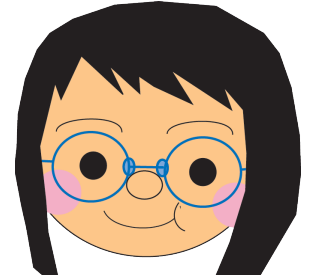
協議会会長になった加畑福井市自治会連合会会長

会員の紹介

ROBA の皆様へ

大西友世（おおにし ともよ）と申します。

早いもので、入会して約1年になります。偶然、会長の内田さんと金沢でお会いしたのがきっかけで入会させていただきました。いまさらですが、ROBA 新聞に入会挨拶の記事を！！ということで。書かせていただきます。



私は現在、福井県には住んでいないのですが、出身は旧武生市です。高校生まで福井県で暮らしていました。高校生や中学生の頃、福武線を利用して福井まで友達と遊びに行っていました。私にとって、電車はとても親しみのある乗り物であり、電車にまつわる思い出もたくさんあります。乗った時の、なんともいえない揺れと風景は今でも大好きです。

福井県に住んでいないので、ROBA の活動にあまり参加できていないのですが、私の仕事が休みの日に行われる活動にはできるだけ参加したいと思っています。

入会して約一年経って、ROBA の魅力は会員のみなさんの熱意と人柄じゃないかな～って感じています。私が ROBA の活動に参加するたびに、親切にさせていただき、受け入れてくださることをとっても嬉しく思っています。

これからも、どうぞよろしくお願いします。

はじめまして。畑結樹（はた ゆうき）と申します。

この5月ようやく入会申込書を記入しました。昨年末、家庭の事情などのため、約10年間勤務した地元新聞社を退職しました。前職のときからROBAの皆さんにはなにかとお世話になっていましたが、公共交通の分野は、仕事とは関係なく大好物なもので、引き続きかわりを持ち続けたいと、入会させていただきました。

思えば、電車のことに首を突っ込み始めたのは、京福の二度の事故、廃線問題のとき、吉田郡を担当していたのがきっかけです。そして、永平寺線の廃線や、存続の論議、利用促進などについて、いろんな現場に立会うことができました。

それから何年かを経て、今の福鉄の問題に接していると、当時のいろんなことが重なって思い出される半面、地域社会の公共交通に対するとらえ方が、ずいぶん前向きに変わってきていることを、感慨深くも感じます。

これからまた、いろいろ勉強しながら、すこしづつ活動にかかわっていければとおもいます。よろしくおねがいします。



証明写真でも使えそうな写真を無理して送っていただきました。「futago400」というファイル名がついており、おもしろいのでそのまま掲載しました。（変集長）

- カーフリーデージャパンが主催した初めてのアジア会議が、横浜で開催、ROBA から私と林理事が参加。
5月29日の夜は、横浜市の横浜開港記念館でプレミーティングそして翌日30日にアジア会議が開催。
プレミーティングでは、国内で昨年「カーフリーデー」に取り組んだ福井市を含む6都市の事例発表と明日の
本会議で発表する6カ国の概要発表がなされた。
2007年、国内ではさいたま市、松本市、名古屋市、那覇市、横浜市そして福井市で「カーフリーデー」
のイベントが実施された。また、発表までには至っていないが、国立市もさくら見物をするため大通りを交
通止めにしていわゆる「カーフリーデー」を実施している。またアジアからは韓国、中国、台北市、ウラン
バートル市（モンゴル）からの発表があった。
- 望月カーフリーデー日本代表コーディネーターがこの会議を、横浜で実施する意義を「行政の力を借りず市
民が中心となってこのイベントを実施していること、横浜という知名度があること」を挙げ、この活動が広
がることを意識、更にヨーロッパから発したこのイベントがアジアにも確実に広がってきていることを鑑み、
横浜で開催することを決定したとその意義を話された。
- 翻って国内に目を迎えると、NPOが主体となってカーフリーデーを推進しているのは「福井市」のみで他
の5都市は「実行委員会」形式で開催されていることがわかった。行政が関わっているのは、那覇市、名古
屋市、松本市、そしてさいたま市です。横浜市と福井市は完全に市民団体が中心、更に市民団体のみで実施
しているのは「福井市」のみです。今後は、他都市と同様、実行委員会形式で他のNPOとの協働で持続可能
な運動体にすることが当面の課題であることを深く認識した。
- カーフリーデーの参加条件として、まず①9月22日に実施すること。②カーフリーゾーンの設定。③新た
な移動交通の提案があること。毎年のことなので、市民団体中心で行なっている「横浜市」では、若干の息
切れ状態が出ていることが担当者の方から出ていました。特に資金面、人材面での協力です。一方、行政側
にも課題がないわけではない。毎年のもので予算の確保、またカーフリーデーの実施の意義などの庁内での
理解、協力を得ることのむずかしさを訴えていた（人事異動等で担当者が変わってしまうため）。
いずれの都市でも「一過性」のイベントであることを前提に、どうやって、公共交通の必要性を訴えてい
くのか？また、カーフリーデーの意義を出していくのか？などは実施主体が官・民に限らず課題となってい
ることが今回の会議に参加してわかった。その中でも特に、那覇市の取組については持続可能な気がした。
というのも、カーフリーデーの実施主体が都市計画課であり、更に強力なNPOがバックについてサポート
をしており、協働の体制ができていた。まことに羨ましい限りである。福井でもこうありたい。
- 本年の福井での開催ですが、全国路面電車サミットの開催に併せてカーフリーデーを実施するが、本年度（2
008年度）のカーフリーデーは「Clean Air for All みんなにきれいな空気を」のテーマのもと9月21
日は駅前通りでクルマを停めてのイベントが予定されているので、この一角で路面電車サミットのプレイベ
ントとして「世界・アジア・日本のカーフリーデーの現況」の展示等、ハチドリ計画の案内も行い、昨年同様
自転車を中心としたイベントで参加し、盛り上げていきたい。



これまで、欧米を中心に進められてきたカーフリーデーは、アジアでは日本がもちろん先行して、「欧米カー！」も市民権を得て？、アジアへの普及を目的にした会議だと思っていました。ところが、逆にアジア各国（都市）の熱意に圧倒され、取り組み方を改める必要があることを痛感した有意義な会議となりました。詳細は、Part 1の高橋さんに譲り、その他の報告をさせていただきます。

1. 横浜で見かけた案内所ふた一つ

ヨコハマ・シティガイド

会場南隣にある「東京ガス」ビル1階の「TEPCO de Oasis」内にあり、横浜シティガイド協会が10:00～16:00に運営している。同じビルのさらに南隣にはサンドイッチカフェの「LINA'S SANDWICHES」があり、そこも行き来できるようになっている。お昼休みに、那覇のメンバーとそこのサンドイッチをオープンカフェで食事しましたが、食欲に意識がいていて、シティガイドに気がつかないくらい奥の方に下がったところにありました。（下左）



横浜市開港記念会館コーヒースタンド

アジア会議の会場である「横浜市開港記念会館」の1Fには、カウンターの付いた「コーヒースタンド」があり、笑顔がかわいいお姉さんと、口が悪いが面倒見のいいオバちゃんとのいいコンビでやっていました。与えられた仕事ではないのに館内の案内に当たっており、来場した若者グループに、「そのカーフリーデーのパネル展を見て行きなさい、せっかく来たのだからちゃんと見ていくんですよ」と。それに素直に従う若者グループ、それが本当のガイドであり、これがタウンマネジメントの本質なのだと、ちょっと煮詰まったやや苦めのコーヒーをすすりながら、なぜか意気投合しました。そこで、こんなのを福井でも作りたいといって、写真を取らせてもらいましたが、オバちゃんには撮影を拒否されて、カウンターの下に隠れられてしまいました。このカウンターは、改修のときにスタンドとして使いやすいように改造したとのことですが、使い勝手と、そこを運営する人材がやはり不可欠だということを痛感しました。（上中）

なお、この会館は、福井とも深い関係があり、岡倉天心の父親が福井出身で生糸売込店（越前藩なのになぜか石川屋）をしていたこの場所で、岡倉天心が生まれたそうです。（上右）

2. その他、いろいろ

- ・ベロタクシーは横浜でも若い女の子の人気の的（たんなる信号待ちですが、いいショットです）
- ・お弁当は「80*80」80%を80km以内から調達した。地産地消弁当、ご飯は紫雲米か？
- ・東京ガス「緑のカーテン」植えこみの内側、窓の外に朝顔を這わせるための網がはられている



平成 20 年度 第 2 回福井市市民協働推進委員会

日 時：平成 20 年 6 月 11 日（水）10：00～12：00

場 所：福井市役所 8 階委員会室

委 員：委員長 木村 亮（福井大学教育地域科学部 教授）

副委員長 蓮花 慶子（マインドアンドサウンドライフ 取締役）

岡嶋 優子（福井県子ども NPO センター 事務局長）

鎌田 正弘（光タクシー有限会社 常務取締役） 公募

小林 明子（福井県立大学看護福祉学部 教授）

寺川 直輝（福井商工会議所総務部 総務課長）

葉袋 奈美子（福井大学工学部 講師）

山下 善久（インターナショナルクラブ代表）

吉田 ひとみ（主婦） 公募

畑 みゆき（ふくい路面電車とまちづくりの会 副会長）

役 割：（１）市長等の執行機関の求めに応じ、市民協働の推進及び非営利公益市民活動の促進に関し調査審議する。

（２）この条例の効果的な運用に関し必要と認める事項について調査審議し、市長等の執行機関に意見を述べるができる。

議 事：「市民協働に関する評価体制について」

- ・第 1 回目の委員会は助成金の審査会のため、前期の委員で開催している。今期の委員としては第 2 回委員会からスタートとなる。
- ・課題として、福井市民活動センターの早期整備 協働に向けたミーティングテーブルを活かした予算編成のあり方 市民協働推進に関する定期的な評価体制整備があり、特に と については具体的な議論が必要。
- ・ミーティングテーブルは市役所初と市民初に企画があり、市役所発の企画は殆どが事業化になっているが、市民発は殆どが事業化になっていない。予算編成とも絡んでくるので、緊急の議論が必要。
- ・次回の委員会は 7 月下旬であったが、緊急課題が多いため 6 月 26 日に開催する。

具体的な議事内容は次回の報告をお待ちください。

（報告 畑みゆき）





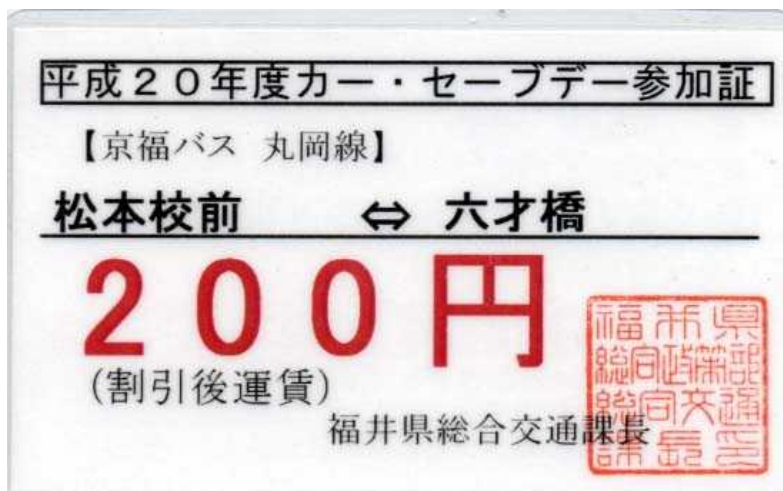
- ROBA / 内田・林博・高橋・鳥居・林
- 森田地区 / 松村会長ほか7名

ROBANEWS 75号で紹介しました将来ビジョン「夢と希望のまと森田」を具体化するため、平成20年度「誇りと夢・創造助成事業」として、ROBAとNPO協働事業を行うことになりました。

最初の会議は、自己紹介後、今後の進め方が話し合われ下記のような事業を計画実施することになりました。 報告 / 林照



- ・ 公共交通環境の現状把握<JR森田駅・京福バス停（丸岡線・大学病院新田塚線）>
- ・ 公共交通利用者へのアンケート<JR森田駅利用者を中心に>
- ・ 森田地区住民への公共交通に関する意識アンケート
- ・ 森田地区公共交通時刻表（地域時刻表）作成、全戸配布
- ・ ワークショップ<アンケート結果を踏まえて>
- ・ 先進地への研修交流<県内・県外1箇所>



- 変集長所有の参加証。通常の運賃は270円。

● 福井県は、これまで毎月1日・16日を「ノーマイカーデー」と位置付け、車利用を控える運動に取り組んで来ましたが、毎月、曜日が変わるため運動に参加しづらい面がありました。

そこで、参加しやすいように毎月第2、第4金曜日固定とした「カーセーブデー」に衣替え。また、バス電車を利用した場合の運賃も最大半額に割り引きになりとてもお得です。取り組み期間は6月から来年3月まで。 報告 / 林照

ゆうじんの部屋 書籍紹介 part2

都市計画の世界史 日端康雄

講談社現代新書 1000円+税

ISBN978-4-06-287932-3 C0222

読みながら唯物論とか、弁証法とかいう言葉を思い出していた。都市の未来を知るには歴史を学ばなければならない。火薬による大砲が城壁を無意味にしたように、新たなテクノロジーはどんな平和の配当を都市に与えるのだろうか。

モーターリゼーションは、健常者にとって個性のない中心市街地を不要にした。世界規模の交易は、工業用地を商業用地に開放した。やはり次は人口減少下で余る郊外住宅地の有効利用が課題である。

(財)国土技術研究センター調査第3部長 美濃部 雄人 Minobe Yujin



総会スナップ



●平成20年度 理事の皆さん

作 / 漆崎 耕次

えち鉄 / 6ヶ月 福鉄 / 3ヶ月

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「誌上最大の作戦? 堂々10ページだー!!!!」

塚谷(副編集長)

「うちのワンコが亡くなりました。享年18才」

内田(発行責任者)

「国は制度を整えているのに、県の行動が遅いぞ!」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>